

校長室より(19) 文化祭・国際論文

四葉祭（文化祭）

12月18日（土）、当初9月に予定していた文化祭を延期していましたが、やっと実施することができました。2年を午前、1年を午後に学年別に分けての短い時間での開催でしたが、科学技術高校の特色を活かした展示や体験ができるように工夫されていて充実した内容でした。

校長着任2年目ですので、私自身が初めての科学技術高校での文化祭でした。クラス企画はクラス代表者中心にまとまりのあるものが多く、換気や密にならない工夫も見られました。他校にない特長は部活動や有志団体のものづくり体験、実験、展示だと考えます。後援会役員の保護者の方々からは機械工作部のサンドブラスト体験が好評でした。展示ではサイエンススクエアにおいて、本校の研究発表ポスターだけでなく、他県のSSH全国大会で上位入賞したポスターなども展示されていました。他にも写真にあるような実験教室や亀、虫、クジラのひげなどの企画・展示があり、私も楽しめました。

次年度は、コロナ感染対策の制限がなくなり、多くの外部の方々が来場できる文化祭が実現したい、と願っています。文化祭実行委員を始め、文化祭を支えてくれた生徒、先生方、本当にお疲れ様でした。



国際論文の査読通過

科学研究部生活科学班に所属する生徒が、今年度も国際論文に投稿し、無事査読を通過し、国際ジャーナル誌に登録されることになりました。昨年は1件が通過、今年は写真の2名の生徒が登録されます。2年連続の快挙です。

1年女子の清水さんは、「実験にかなり時間がかかり大変だった。夏休みに一からやり直しとなったが、あきらめずに頑張れた。」と話していました。2年男子の花澤君は、「提出〆切り直前まで実験結果が出てこず、2日前にやっと得られた。論文は事実だけを論理的に記述することを心掛けた。」と話していました。

また、今後、英語での発表が控えているそうです。発表に向けても頑張りたいと抱負を述べていました。成果を得るには多くの時間と、粘り強さが必要です。本当におめでとうございます。

（校長 久保 剛）

